

「正義」と「一致」を主題とした全体会議

「祈りだけでは正義は実現されない」
「一致・正義・平和のために奉仕し連帯する」

「国民日報」

2013.11.06 21:37

<http://p.tl/BqQb>

WCC 総会が 6 日、「教会の一致」と題した声明を採択した。

一致の声明は前日採択される予定であったが、正教会の代表者らが神学的な問題を提起して一日延期された。声明では、異なる伝統を持つクリスチャンたちが正義と平和のために奉仕し、連帯することは、神の恵みであり、教会は、神が創造された世界で預言者的使命を果たさなければならないという内容を盛り込んだ。代議員は声明を採択し「ここに込められたビジョンと挑戦的コミットメントに WCC のメンバー教会が答えなければならない」と励ました。

この採択に先立って午前が開かれた全体会議は、「正義 (Justice)」をテーマに扱った。講演を行った南アフリカの牧師は、「正義のための行動は、選択が重要だ」と言い「祈りだけだと正義は実現されない。正義が実現するためには、行動しなければならない」と述べた。

神の正義が実現されるべき具体的な現場も紹介された。海面上昇で水没の危機に追い込まれた南太平洋の島国ツバル、経済危機に陥ったギリシャ、アフリカのエイズ問題が次々と舞台に登場した。

ツバルの牧師は、「気候変動は私たち自身に起因するものではなかったが、私たちは生態系の危機の最大の被害者になった」とし、「同情ではなく、連携を」と強調した。

アフリカ・マラウイ共和国の牧師は、「エイズは神の罰ではなく、単なる病気だ」としながら「教会は、すべての誤解を取り除くことで、治療に貢献して欲しい」と訴えた。

続いて社会 (差別・疎外・性)・経済・生態系の 3 つの領域で正義がどのように破壊されているかについて、WCC の神学的な視点が提示された。即ち、自然の乱用・弱者の貧困・性差別・人権侵害などは、支配と成長という「欲の論理」にとらわれた現代文明の帰結である、とする視点である。

正義への関心は、WCC の核心的価値である。WCC は、教会の社会参加を導き出した。このことは、個人の救いを強調してきた福音主義諸教会とは区別される WCC 的エキュメニカル運動の特性となった。そうした特性を生かし、これまでに WCC は、南アフリカの人種差別と戦い、世界中の女性が直面している強姦と性奴隷問題の解決を促し、そして、韓国の民主化にも貢献した。